

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296800036		
法人名	株式会社オール看護小笠		
事業所名	グループホーム小笠 (A, Bユニット 合同)		
所在地	静岡県菊川市上平川201		
自己評価作成日	平成25年2月18日	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2296800036-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成25年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

系列に訪問看護事業所を備えていることから、近隣のグループホームには数少ない訪問看護との医療連携を行っており、日常の健康管理や緊急時の対応において、その支援を受けられる体制を整えている。また、全ての入所者がその限りではないが、かかりつけ薬局の薬剤師による居宅療養管理指導を受けており、日々の介護における医療支援の充実を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ほぼ隣接する形で、法人の訪問看護ステーションやデイサービスがあり、医療連携や行事などに相乗効果が期待できます。行政連携、地域との関係づくりなど、地域密着型に求められる一つひとつのことに真摯に取り組んでいますが、特に医療連携に力が注がれています。今までのかかりつけ医を尊重して、家族介助での受診を基本としていますが、殆どは管理者やリーダーが介助を行っています。そのため、主治医には現状を明瞭に伝え、的確な指示をもらえていて、家族との信頼関係に繋がっています。すぐ前にある同法人の訪問看護事業所から看護師が毎日来訪し、必要な措置の時は日に3回の訪問もあるほどで、24時間対応が叶っています。開所以来、3件の看取りを行っていて、今後も要望があれば看取りにも取り組む積極的な姿勢が心強い事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設後、2年を迎えようとしており、理念とした「地域に開かれた介護と看護の協同したグループホーム」像は市や総合病院、近隣の居宅介護支援事業所に浸透し始めている。	「地域に開かれた介護と看護の協同したグループホーム」が理念としてあります。今まではリーダークラスまでの浸透に留まっていますが、職員には事業所の特徴である介護、看護の連携を理解しており、職員の方向性が統一し始めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一昨年に続き、昨年の10月に行なわれた地区祭典でも、地元の山車の誘致を行った。他、自治会との関係においては、自治会費を納入するばかりでなく、常会に参加する等している。	自治会に加入しており、毎月地域の常会に出席し、地区の清掃活動にも管理者が参加しています。中・高校生の職場体験も受け入れ、また近所からの野菜などのおすそ分けもあり、日常的に人の出入りがあります。地域の祭りの花山車も立ち寄ってくれています。	事業所で開催する行事に地域の皆さんを呼んでの交流が実現することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は在宅介護者を対象とした市主催の「介護者のつどい」に事業所管理者として出席し、認知症に対する理解を広める活動を行った。今後は地域の方を対象として、運営推進会議と連動した形で、そのような場を設けたいとも考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度に続き、今年度の運営推進会議でも、毎回、利用者の最近の様子や報告の議題を盛り込んでいる。また自治会より地域防災への協力要請を受け、活動に取り組んでいる。	市、包括、自治会長、家族代表、利用者代表が毎回出席し、2ヶ月に1回開催しています。会議の中では、災害時には安全確認の旗を出すなどの貴重な情報が聞けていて、どんど焼きや新年会への参加も勧められています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	昨年度に続き、今年度の運営推進会議でも、全て、市町村担当者と地域包括支援センター職員の双方にご参加して頂いており、関係は良好である。	運営推進会議には市の職員、包括が毎回参加してくれ、事業所も議事録を直接届け、協力関係にあります。また、市主催の「介護者のつどい」にキャラバンメイトとして事業所管理者が出席し、認知症に対する理解を広める活動を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が具体的な行為の詳細まで正しく理解はしていないが、身体拘束の弊害は理解している。ただ、2ユニットの廊下が自由に往来出来る形をとっている時もあり、両出入口には施錠を行っている。	身体拘束ゼロ宣言をしています。市からの見解ならび指導もあり、利用者の安全確保を優先に考えたユニットの入口施錠がおこなわれていますが、外に出たい気配を感じた時は、落ち着くまで職員も一緒に付き添っています。	身体拘束研修などの取り組みは未実施ということですので、職員知識の標準化に向けた実施を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する研修には未参加であり、今後はそれらを学んでいけるような機会を持ちたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々には日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修等に参加したことのある者はいるが、その数はまだ少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にもそのことを謳い、また利用者と各ご家族の面会の際や、サービス担当者会議や運営推進会議においても意見や要望を発信しやすいよう、こちらからも尋ねるようにしている。	運営推進会議での意見のほか、特に面会では細部まで聞けていてケアに反映されやすくなっています。ケアプランの確認について来設が難しい家族にはケアマネジャーが出向き、要望を吸い上げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場においてや個別面談の際に、個別に職員からの意見や提案を聞くようにしている。	管理者、代表者が個別面談を年2回実施しています。ユニット会議は毎月あり、退院後の食事に関してや職員間の連絡体制再構築のための意見、行事などにも提案が出されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりと個別に面接する機会を持ち、各自の相談に応じる等の姿勢をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記と同じく、代表者は、管理者や職員一人ひとりと面接する機会を持つとともに、法人内外の研修の告知を行い、参加を推奨する等している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度に行われた市のケアマネジャー協議会等において、市内の他施設や居宅介護支援事業所のケアマネジャーたちとの事例検討が行われ、当グループホームの事例も扱われた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やユニットリーダーを中心に、アセスメント作業を通じて概ね出来ており、個々の職員にも周知を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始時においては、アセスメント作業を通じて、管理者およびユニットリーダーがそれを担っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーでもある管理者が責任を持って担っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームとして、利用者とともに食器洗いや食器拭き、洗濯物干しや洗濯物たたみ等、生活感のある一日を過ごせるよう全職員が心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際やご家族への手紙に利用者の近況を報告する他、受診の際や、緊急時の対応、その他のホームだけでは困難な問題等に関して、連絡を密にし、家族にも協力を仰ぐ形をとり、信頼関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会の方もいらっしゃる事が多い為、その際には会話の弾むような面会時間の創出(面会場所の設定だけでなく、守秘義務の範囲内で職員も話に加わる等)を心がけている。	訪ねやすい環境のため友人・知人の面会も多くあります。認知症への理解は一様ではない為、訪問者との仲を取り持ちスムーズな会話への支援を心掛けています。絵画の趣味、正月飾り作りや農作業、料理や洗濯などの家事の継続に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者同士のつながりや、孤立しがちな入居者が参加しやすい環境、自立度の高い入居者に活躍してもらおう場をつくること等でその様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時には、周囲で介護で悩んでいる方がいらっしゃるのであれば、お気軽にご相談下さいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の事前面接のアセスメントや、入居後のモニタリングや再アセスメントを通じ、本人やご家族の意向を汲み取るように努めている。	入居後も管理者が家族を訪ね、情報交換に努めており、プランに反映しやすい環境が出来ています。センター方式の1部を導入し、また「発見シート」も用い始めています。入浴時に嗜好を聞いたり、昔の話をしたりなども、意向把握に繋がっている要因です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接でアセスメントするほか、本人の趣味、家族関係、当グループホームに望む介護を聞きとり、それをケアプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングや再アセスメントを通じて得た情報や日々の記録を確認することで、ケアプランに反映し、各職員にはその情報を活かせるように指導している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議での検討、モニタリングや再アセスメントを通じて、毎回のケアプランに盛り込んでいくようにしている。	担当制を敷いていて、ユニット会議内でケアカンファレンスを行って話し合っています。Aユニットは計画作成担当者、Bユニットはケアマネジャーが取りまとめ、プランの作成見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	そのようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時、入居中、退去時に至るまで、相談や要望にはできる限り応える努力をしている他、系列に訪問看護事業所を備えていることから、近隣のグループホームにはない訪問看護との医療連携を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実績には至らないが、運営推進会議を活かし、地域に開かれたグループホームとしていけるよう努めていきたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者により、家族が付き添う受診、職員が付き添う受診と二分されているが、利用者に関わる重要な局面においては双方が付き添うことがあり、かかりつけ医との相談を行なっている。	今までのかかりつけ医を尊重して、家族介助が原則ですが、実際は殆ど管理者やリーダーが介助を行っています。そのため、医師に現状を明瞭に伝えることからの的確な指示に繋がり、家族にも安心となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を算定していることもあり、朝・昼・夕の食事前の他、緊急時の対応にも、併設の訪問看護事業所から訪問看護師の支援を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	その様にしており、近隣の市の総合病院の相談員や病棟看護師の方とは、入院の開始時、入院の最中、退院やその後においても連絡を密にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでの看取りを選択する状況もあるが、医療依存度があまりにも高くなった場合においては、総合病院への入院を勧めたり、療養型施設を紹介させて頂くことがあると入所の段階で伝えるようにしている。	今年度、家族、かかりつけ医との連携で1名看取りを行い、これまでの実績は3件となりました。ターミナルの意向や延命措置の希望については状態変化に合わせて家族に確認しています。急変時には主治医に連絡し、指示を仰げる状態になっていることが強みです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々の職員の習熟度、理解度によって左右されており、全体としての技術は低いものの、昨年度と今年度ともに、数名の職員が地区の医師会主催の救急救命講習への参加をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度に行なわれた地域の防災訓練には、利用者の参加は行なわれなかったものの、地域の防災を話し合う場にグループホーム職員が参加したり、訓練に一部参加する等、地域の一員としての協力関係を築こうとしている。	事業所訓練は年2回行って消防署への報告を行っています。内1回は総合訓練を、別の1回は個別に避難誘導、通報訓練、消火訓練(水消火器)を行っています。地域の訓練には職員が参加し、地域からも協力の声はもらっています。	消防署の立ち合い指導を求めているが叶っていないとのことなので、今後も継続した関係継続に努めることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の職員の習熟度、理解度によっても大きく左右されるが、尊重する姿勢の育成に努力している。	接遇研修はしていませんがOJTで指導しています。呼称にはさんづけを基本としていて、入浴時などの同性介助にも応じていたり、トイレ誘導時には声掛けに気を遣っていて、人格を尊重して、羞恥心に配慮した取組をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	概ねできている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の職員の習熟度、理解度によっても大きく左右されるが、尊重する姿勢の育成に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コスト面も踏まえ、本人の望む店を選ぶところまでは行かないが、1ヶ月に一度程度招いている訪問理美容を利用する際は、その理美容師に望む容姿を伝えることを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	土曜日と日曜日は利用者と職員と一緒に、食事の下ごしらえや盛り付けや配膳等の準備、食器洗いや食器拭き等の片付けを行っており、楽しむことができるよう支援している。	訪問した調査日は行事食のひな祭り食で、利用者の顔も綻んでいました。食材は外注で届き、厨房で調理担当が作っています。土・日曜日は介護職員が作っていて、利用者も包丁を持って野菜を切る等できることに参加しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医よりカロリーや水分の摂取制限の指示が出ている利用者に関しては、その事項を守るように徹底している。また食事量に関しては、朝・昼・夕の三食の摂取量を主食と副食に分けて記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者の状態に合わせる他、知識の研鑽では今年2月に行われた市主催の口腔ケアに関する研修会へ職員の参加を呼び掛けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適時、声かけに注意しながら、トイレ誘導や紙おむつ交換等を行っている。	日中は出来るだけ布パンツで過ごせることを目指しています。排泄チェック表を活用し、声掛け誘導していて、失敗が少なくなっています。パット使用を工夫し、家族の経済的軽減にも努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	処方薬に頼るだけでなく、食物繊維の多い食事を取り入れたり、ラジオ体操を行なう等、体を動かすことにより、腸の運動を促し、便秘の改善に向け取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の入浴したい時間や順番に関しては、本人の体調面も勘案しながら、自由度を持った入浴時間の工夫に努めている。	毎日湯の準備があり、2～3日おきの入浴が叶っています。一般の広めの浴槽と、横になったまま浸れる伸展浴機械の浴槽があり、選べます。1対1の介助で、時々入浴剤を入れたり、ゆず湯など季節の行事に合わせた楽しみも提供しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠薬に頼るのではなく、日中の活動量を増やし、夜間の安眠を創出する努力を職員に促す他、職員との家事作業で少し負担を感じた時は、メリハリをつけた休息がとれるように支援していけるよう指導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の習熟度、理解度によって大きく左右されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活支援の場において、概ねそのようにしている。以前に農業を営んでいた利用者は職員と一緒にホームの敷地にある畑で野菜作りに参加しており、役割を持つことで個人の存在を尊重している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の機会が少なく、戸外に出かけるのは受診時以外はほとんど無く、満足な外出支援は行なわれていないが、介護保険の更新申請時などは、本人とともに市役所に行き、届け出を行っている。	個別対応で散歩の機会が頻回にあり、裏の神社や近くにあるデイサービスに遊びに行くことがあります。畑やプランター作業では、植える、水やり、草取り、収穫を楽しむ利用者もいます。ドライブでコスモス畑、絵画の展示会など、短時間でも充実した外出となるよう心がけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が入出金を全て行っており、支援が至っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の利用者の認知症の程度より、携帯電話を所持している利用者もいるが、手紙のやり取りは行なえておらず、今後は家族との年賀状交換も行なえたら良いと考えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その様にしている。	広く明るい玄関には蘭の花が置かれ、水槽の小さなメダカはベットの存在です。回遊式の廊下は、両ユニットを結ぶと1周が80mほどになり、歩行リハビリや外に出られない日の散歩コースとなります。また、中庭のウッドデッキはお茶や日光浴を楽しむ場にもなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファ以外にも自由に椅子を置く等して、利用者が気軽にくつげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、施設的な色合いも出ているが、廊下に入居者の作品やホールに笑顔の写真やピアノを配し、できるだけ施設的なものを払拭し、生活感を出すよう努めている。	クローゼット、洗面台、エアコン、トイレが備えつけてあり、ベッドは自分の状態に合わせて使い慣れたものを持ちこんでいます。油絵が趣味の利用者は自分の作品に囲まれているなど、思い思いのものをレイアウトして過ごしやすい居室作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には廊下、浴室、トイレ等に手すりの設置がある他、身体機能の低下した利用者でも安全に入浴できるよう機械浴槽が設けられている等の配慮がある。		